

景気ウォッチャー調査(東海地区:2015年6月)

～現状判断DIは7ヶ月ぶりに低下～

- 7月8日に内閣府が公表した「景気ウォッチャー調査」によると、東海地区の6月の現状判断DI(3ヶ月前と比較しての景気の現状に対する判断:各分野計)は前月差2.9ポイント低下の50.3と、横ばいを示す50を5ヶ月連続で上回ったが7ヶ月ぶりに低下した。家計動向関連(小売、飲食、サービス、住宅関連)DIは、6月は前月差4.4ポイント低下の48.8と、7ヶ月ぶりに低下し横ばいを示す50を下回った。企業動向関連と雇用関連からなるDIは、6月は前月差0.2ポイント上昇の53.4と、4ヶ月ぶりに上昇した(注1)。

現状判断DI(方向性)

	各分野計		家計動向関連		企業動向・雇用関連	
	東海 (前月差)	全国 (前月差)	東海 (前月差)	全国 (前月差)	東海 (前月差)	全国 (前月差)
15年 4月	52.5 (+1.5)	53.6 (+1.4)	51.5 (+3.5)	53.2 (+2.3)	54.6 (-2.1)	54.4 (-0.3)
5月	53.2 (+0.7)	53.3 (-0.3)	53.2 (+1.7)	53.6 (+0.4)	53.2 (-1.4)	52.7 (-1.7)
6月	50.3 (-2.9)	51.0 (-2.3)	48.8 (-4.4)	50.4 (-3.2)	53.4 (+0.2)	52.3 (-0.4)

- 6月の先行き判断DIは、前月差2.0ポイント低下の52.7と、横ばいを示す50を3ヶ月連続で上回ったが3ヶ月ぶりに低下した。また、家計動向関連のウォッチャーによる景気の先行き判断DIは前月差3.6ポイント低下の51.2と、3ヶ月ぶりに低下した。企業動向関連・雇用関連のウォッチャーによる景気の先行き判断DIは前月差1.2ポイント上昇の55.7と、4ヶ月ぶりに上昇した。

先行き判断DI(方向性)

	各分野計		家計動向関連		企業動向・雇用関連	
	東海 (前月差)	全国 (前月差)	東海 (前月差)	全国 (前月差)	東海 (前月差)	全国 (前月差)
15年 4月	54.3 (+3.0)	54.2 (+0.8)	53.8 (+4.7)	53.9 (+0.8)	55.3 (0.0)	55.0 (+0.9)
5月	54.7 (+0.4)	54.5 (+0.3)	54.8 (+1.0)	54.3 (+0.4)	54.5 (-0.8)	54.9 (-0.1)
6月	52.7 (-2.0)	53.5 (-1.0)	51.2 (-3.6)	52.9 (-1.4)	55.7 (+1.2)	54.7 (-0.2)

- 現在の景気の水準自体に対する判断DI(各分野計)は、6月は前月差1.2ポイント低下の48.9と、2ヶ月連続で低下し中立を示す50を下回った。家計動向関連のウォッチャーによる景気の水準自体に対する判断DIは前月差1.4ポイント低下の46.3と、7ヶ月ぶりに低下、企業動向・雇用関連のウォッチャーによる景気の水準自体に対する判断DIは前月差0.7ポイント低下の54.1と、2ヶ月連続で低下した。

現状判断DI(水準)

	各分野計		家計動向関連		企業動向・雇用関連	
	東海 (前月差)	全国 (前月差)	東海 (前月差)	全国 (前月差)	東海 (前月差)	全国 (前月差)
15年 4月	51.0 (+2.0)	50.3 (+2.1)	47.5 (+2.8)	48.5 (+2.9)	57.9 (+0.9)	54.0 (+0.7)
5月	50.1 (-0.9)	50.6 (+0.3)	47.7 (+0.2)	49.8 (+1.3)	54.8 (-3.1)	52.3 (-1.7)
6月	48.9 (-1.2)	48.6 (-2.0)	46.3 (-1.4)	47.0 (-2.8)	54.1 (-0.7)	51.7 (-0.6)

三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社

調査部 鈴木明彦 塚田裕昭 杉本宗之

〒105-8501 東京都港区虎ノ門5-11-2 / 〒461-8511 名古屋市東区葵1-19-30

TEL:03-6733-1070 / 052-307-1106

- 内閣府では、全国調査での景気ウォッチャーの見方として「景気は、緩やかな回復基調が続いている。先行きについては、物価上昇への懸念等がみられるものの、夏のボーナス、外国人観光需要、プレミアム付商品券への期待等がみられる」とまとめ、4月の判断を基本的に維持している。

(5月のまとめ) 「景気は、緩やかな回復基調が続いている。先行きについては、物価上昇への懸念等がみられるものの、夏のボーナス及び賃上げ、外国人観光需要への期待等がみられる」

- 東海経済については、「景気は、緩やかな回復基調が一服している。企業動向・雇用関連の弱い動きが落ち着いてきたが、家計動向関連に弱い動きが見られる。先行きについては、企業動向・雇用関連に改善の兆しがある一方で、家計動向関連では見方が厳しくなっている。ボーナス増加への期待は続いているが、やや後退しており、原材料価格の上昇や物価の上昇に対する懸念が続いている。一方、伊勢志摩サミットやプレミアム付商品券への期待が出てきている」とまとめられる。

(5月のまとめ) 「景気は、緩やかな回復基調が続いている。ただ、企業動向・雇用関連にこのところ弱い動きが見られる。先行きについては、家計動向関連を中心に改善が見込まれている。賃上げやボーナス増加への期待が続いている一方で、原材料価格の上昇や物価の上昇に対する懸念も続いている」

- 全国の景気の現状判断DIが2ヶ月連続で悪化したのに続き、東海地区でも7ヶ月ぶりに悪化した。家計動向関連の現状判断DIが7ヶ月ぶりに悪化したことが影響している。一方で、2ヶ月連続で悪化していた企業動向・雇用関連の現状判断DIが小幅ながら上昇した。

- 景気の先行きについてのウォッチャーのコメントを読むと、ボーナスの増加に対する期待が続いているが、すでに支給が始まっていることもあり、期待が後退している。また、円安も影響した原材料価格の上昇や物価上昇の影響に対する懸念が続いている。一方、プレミアム付商品券に加えて、伊勢志摩サミットへの期待が出てきている。

(注1) 企業動向関連と雇用関連からなるDIは、内閣府HPに掲載されている地域別の各分野合計値から家計動向関連の値を除いた上で、「景気ウォッチャー調査」のDI算出方法に従って当社調査部にて試算した。

(注2) 3大都市圏の都府県内訳は以下の通り。

東海=愛知、岐阜、三重、静岡

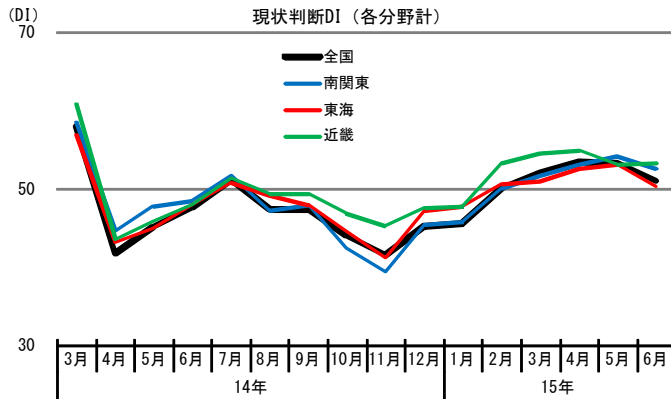
南関東=埼玉、千葉、東京、神奈川

近畿=滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山

1. DIの動向

(1) 景気の現状判断（3ヶ月前との比較、方向性）

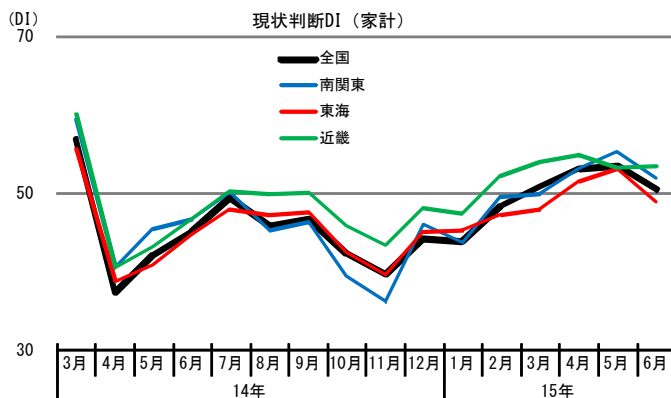
○ 3ヶ月前と比較しての景気の現状に対する判断DI（各分野計）は、6月は2.9ポイント低下の50.3と、横ばいを示す50を5ヶ月連続で上回っているが7ヶ月ぶりに低下した。南関東、近畿に比べても低い水準となった。



■各分野計(家計動向関連+企業動向関連+雇用関連)
DI

		全国	南関東	東海	近畿	
14年	3月	57.9	58.5	57.0	60.8	
	4月	41.6	44.5	43.2	43.6	
	5月	45.1	47.8	44.9	45.9	
	6月	47.7	48.4	47.9	47.9	
	7月	51.3	51.7	50.8	51.4	
	8月	47.4	47.3	49.2	49.3	
	9月	47.4	48.0	48.0	49.4	
	10月	44.0	42.3	44.5	47.0	
	11月	41.5	39.3	41.2	45.4	
	12月	45.2	45.5	47.3	47.6	
	15年	1月	45.6	45.8	47.8	47.8
		2月	50.1	50.2	50.6	53.3
3月		52.2	51.8	51.0	54.6	
4月		53.6	53.2	52.5	54.9	
5月		53.3	54.2	53.2	53.1	
6月		51.0	52.6	50.3	53.3	

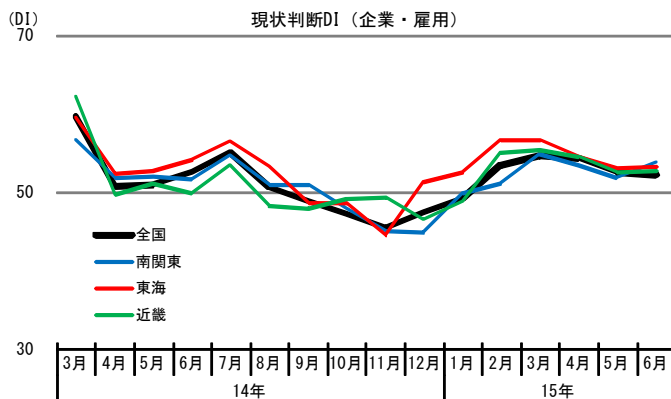
○ 家計動向関連（小売、飲食、サービス、住宅関連）DIは、6月は前月差4.4ポイント低下の48.8と、7ヶ月ぶりに低下し横ばいを示す50を下回った。南関東、近畿に比べても低い水準となっている。



■家計動向関連(小売関連+飲食関連+サービス関連+住宅関連)
DI

		全国	南関東	東海	近畿	
14年	3月	57.0	59.5	55.7	60.1	
	4月	37.2	40.5	38.7	40.4	
	5月	42.1	45.5	40.8	43.1	
	6月	45.1	46.8	44.7	46.8	
	7月	49.4	50.1	47.9	50.3	
	8月	45.8	45.4	47.2	49.9	
	9月	46.7	46.4	47.7	50.2	
	10月	42.3	39.4	42.3	45.9	
	11月	39.5	36.1	39.5	43.2	
	12月	44.2	45.9	45.1	48.2	
	15年	1月	43.9	43.6	45.4	47.4
		2月	48.4	49.6	47.2	52.3
3月		50.9	50.0	48.0	54.1	
4月		53.2	53.1	51.5	55.0	
5月		53.6	55.4	53.2	53.4	
6月		50.4	51.9	48.8	53.6	

○ 企業動向関連と雇用関連からなるDIは、6月は前月差0.2ポイント上昇の53.4と、4ヶ月ぶりに上昇し横ばいを示す50を7ヶ月連続で上回った。南関東、近畿とほぼ同水準となっている。

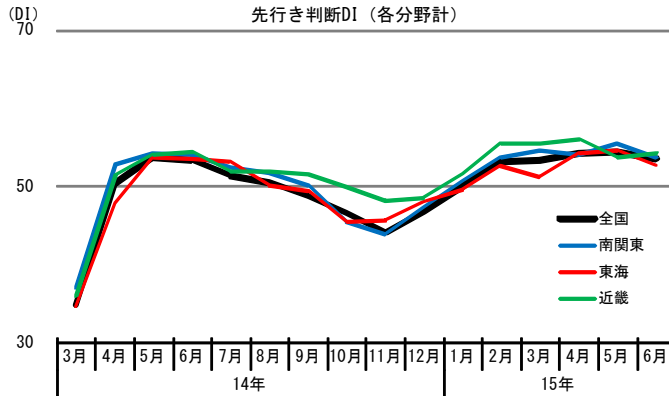


■企業動向関連+雇用関連
DI

		全国	南関東	東海	近畿	
14年	3月	59.8	56.7	59.5	62.2	
	4月	50.8	51.9	52.4	49.7	
	5月	51.0	52.1	52.9	51.1	
	6月	52.7	51.7	54.2	50.0	
	7月	55.1	54.7	56.6	53.5	
	8月	50.6	51.0	53.3	48.3	
	9月	48.9	50.9	48.7	47.9	
	10月	47.3	48.0	48.7	49.2	
	11月	45.5	45.0	44.6	49.4	
	12月	47.4	44.9	51.3	46.5	
	15年	1月	49.1	50.0	52.6	48.8
		2月	53.5	51.2	56.7	55.2
3月		54.7	55.0	56.7	55.5	
4月		54.4	53.5	54.6	54.7	
5月		52.7	51.9	53.2	52.6	
6月		52.3	53.9	53.4	52.8	

（２）景気の先行き判断（２～３ヶ月先の見通し、方向性）

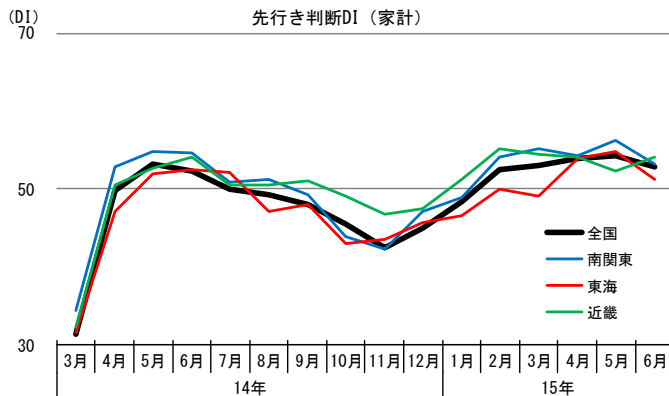
- ２～３ヶ月先の景気の先行きに対する判断D I（各分野計）は、６月は2.0ポイント低下の52.7と、３ヶ月ぶりに低下した。横ばいを示す50を５ヶ月連続で上回ったが、南関東、近畿に比べてやや低い水準となっている。



■各分野計(家計動向関連+企業動向関連+雇用関連)

		DI				
		全国	南関東	東海	近畿	
14年	3月	34.7	37.1	34.6	36.0	
	4月	50.3	52.8	47.9	51.4	
	5月	53.8	54.3	53.8	54.1	
	6月	53.3	54.2	53.6	54.5	
	7月	51.5	52.6	53.1	51.9	
	8月	50.4	51.8	50.1	51.9	
	9月	48.7	50.2	49.4	51.5	
	10月	46.6	45.5	45.5	50.0	
	11月	44.0	43.9	45.6	48.2	
	12月	46.7	47.3	48.0	48.6	
	15年	1月	50.0	50.8	49.6	51.6
		2月	53.2	53.8	52.6	55.5
3月		53.4	54.6	51.3	55.5	
4月		54.2	54.0	54.3	56.1	
5月		54.5	55.6	54.7	53.7	
6月		53.5	53.8	52.7	54.2	

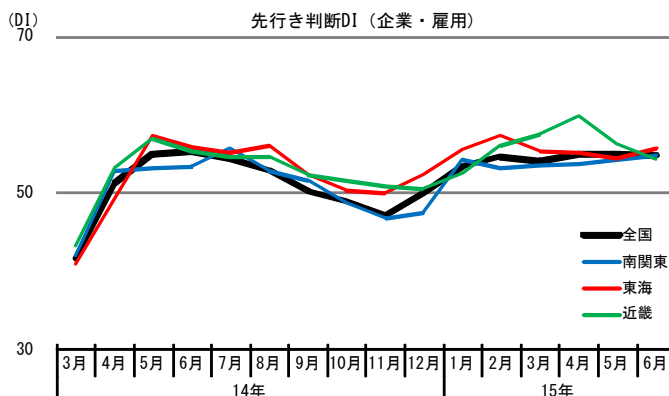
- 家計動向関連のウォッチャーによる景気の先行き判断D Iは、６月は、前月差3.6ポイント低下の51.2と、横ばいを示す50を３ヶ月連続で上回ったが３ヶ月ぶりに低下した。横ばいを示す50を３ヶ月連続で上回ったが、南関東、近畿に比べ低い水準となっている。



■家計動向関連(小売関連+飲食関連+サービス関連+住宅関連)

		DI				
		全国	南関東	東海	近畿	
14年	3月	31.3	34.5	31.5	32.2	
	4月	49.8	52.8	47.2	50.6	
	5月	53.1	54.9	52.0	52.6	
	6月	52.3	54.6	52.5	54.0	
	7月	50.0	50.9	52.1	50.4	
	8月	49.3	51.2	47.2	50.6	
	9月	48.0	49.4	48.0	51.1	
	10月	45.4	43.8	43.0	49.1	
	11月	42.5	42.3	43.5	46.8	
	12月	45.0	47.1	45.7	47.5	
	15年	1月	48.4	48.8	46.5	51.2
		2月	52.4	54.1	50.0	55.2
3月		53.1	55.2	49.1	54.5	
4月		53.9	54.2	53.8	54.1	
5月		54.3	56.3	54.8	52.3	
6月		52.9	53.2	51.2	54.1	

- 企業動向・雇用関連のウォッチャーによる景気の先行き判断D Iは、６月は前月差1.2ポイント上昇の55.7と、４ヶ月ぶりに上昇した。横ばいを示す50を14ヶ月連続で上回っており、全国、近畿、南関東とほぼ同水準となっている。

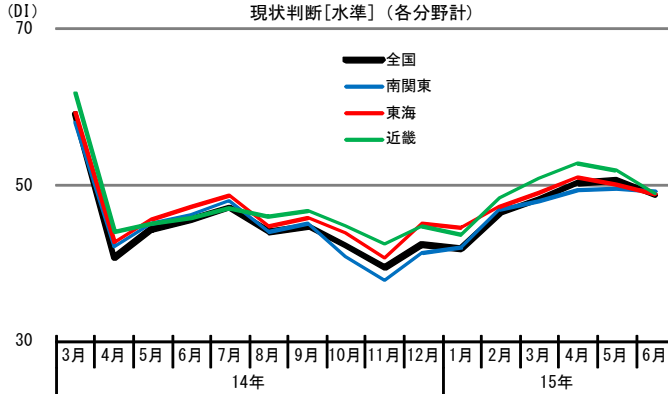


■企業動向関連+雇用関連

		DI				
		全国	南関東	東海	近畿	
14年	3月	41.5	41.9	40.8	43.2	
	4月	51.3	52.9	49.3	53.1	
	5月	55.0	53.3	57.4	56.9	
	6月	55.3	53.3	55.8	55.4	
	7月	54.5	55.7	55.3	54.6	
	8月	52.8	52.9	56.0	54.7	
	9月	50.2	51.7	52.3	52.4	
	10月	48.9	48.8	50.3	51.7	
	11月	47.1	46.7	50.0	50.9	
	12月	49.9	47.5	52.3	50.6	
	15年	1月	53.4	54.4	55.6	52.4
		2月	54.6	53.2	57.4	56.0
3月		54.1	53.5	55.3	57.6	
4月		55.0	53.7	55.3	59.9	
5月		54.9	54.4	54.5	56.3	
6月		54.7	54.9	55.7	54.3	

（3）景気の現状判断（水準）

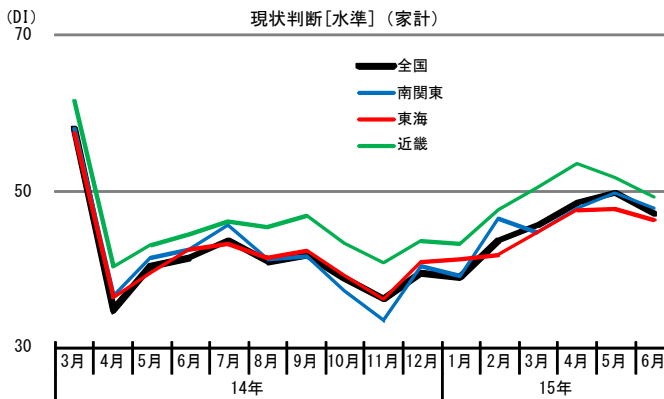
- 現在の景気の水準自体に対する判断D I（各分野計）は、6月は前月差1.2ポイント低下の48.9と、2ヶ月連続で低下した。中立を示す50を3ヶ月ぶりに下回り、全国、近畿、南関東とほぼ同水準となっている。



■各分野計（家計動向関連＋企業動向関連＋雇用関連）

		DI			
		全国	南関東	東海	近畿
14年	1月	52.8	52.9	54.8	51.7
	2月	51.4	49.1	54.1	56.2
14年	3月	59.1	57.9	59.3	61.8
	4月	40.6	42.0	42.5	44.0
	5月	44.3	45.0	45.5	45.0
	6月	45.5	46.1	47.3	45.8
	7月	47.0	48.0	48.7	47.0
	8月	44.0	44.0	44.8	46.0
	9月	44.6	45.0	45.8	46.7
	10月	42.1	40.8	43.7	44.6
	11月	39.3	37.8	40.5	42.3
	12月	42.3	41.3	45.0	44.7
15年	1月	41.9	42.0	44.6	43.7
	2月	46.2	46.9	47.2	48.2
	3月	48.2	47.9	49.0	50.8
	4月	50.3	49.3	51.0	52.8
	5月	50.6	49.6	50.1	51.8
	6月	48.6	49.2	48.9	48.8

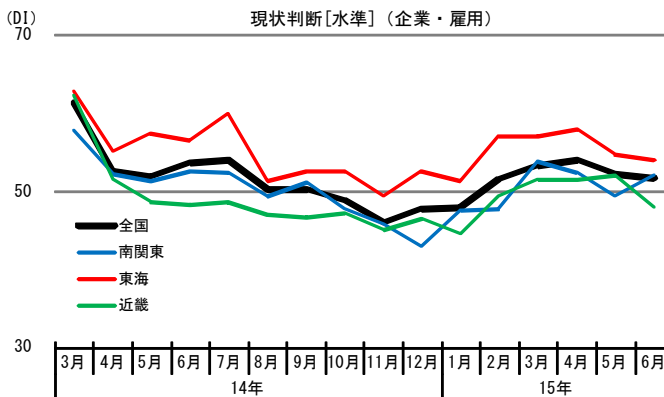
- 家計動向関連のウォッチャーによる景気の水準自体に対する判断D Iは、6月は前月差1.4ポイント低下の46.3と、7ヶ月ぶりに低下し南関東、近畿を下回っている。



■家計動向関連（小売関連＋飲食関連＋サービス関連＋住宅関連）

		DI			
		全国	南関東	東海	近畿
14年	1月	49.5	51.0	50.5	49.4
	2月	47.7	45.9	50.9	53.5
14年	3月	58.0	57.9	57.5	61.5
	4月	34.7	36.5	36.3	40.3
	5月	40.5	41.5	39.5	43.1
	6月	41.4	42.6	42.6	44.4
	7月	43.6	45.6	43.2	46.2
	8月	40.9	41.2	41.5	45.5
	9月	41.8	41.6	42.3	46.8
	10月	38.9	37.2	39.2	43.3
	11月	36.1	33.3	36.2	40.8
	12月	39.6	40.4	41.0	43.7
15年	1月	39.0	39.1	41.2	43.2
	2月	43.6	46.4	41.8	47.6
	3月	45.6	44.7	44.7	50.4
	4月	48.5	47.8	47.5	53.6
	5月	49.8	49.8	47.7	51.7
	6月	47.0	47.7	46.3	49.3

- 企業動向・雇用関連のウォッチャーによる景気の水準自体に対する判断D Iは、6月は前月差0.7ポイント低下の54.1となり、2ヶ月連続で低下したが、中立を示す50を7ヶ月連続で超えており、全国、南関東、近畿を上回る推移が続いている。



■企業動向関連＋雇用関連

		DI			
		全国	南関東	東海	近畿
14年	1月	59.5	56.4	63.0	55.9
	2月	58.9	55.2	60.5	61.1
14年	3月	61.4	57.9	62.8	62.2
	4月	52.7	52.1	55.1	51.4
	5月	51.9	51.4	57.4	48.6
	6月	53.6	52.6	56.5	48.3
	7月	54.1	52.4	59.9	48.6
	8月	50.3	49.3	51.3	47.1
	9月	50.3	51.2	52.6	46.7
	10月	48.8	47.8	52.6	47.2
	11月	45.9	45.8	49.3	45.1
	12月	47.7	42.9	52.6	46.5
15年	1月	47.9	47.6	51.3	44.6
	2月	51.5	47.8	57.1	49.4
	3月	53.3	53.8	57.0	51.5
	4月	54.0	52.5	57.9	51.5
	5月	52.3	49.3	54.8	52.0
	6月	51.7	52.0	54.1	47.8

2. ウォッチャーのコメントから読み取る景気動向

（1）景気の現状判断

- 6月の東海地区の景気の現状判断D I（50.3）は、横ばいを示す50を5ヶ月連続で上回ったが、7ヶ月ぶりに前月より低下した。景気の緩やかな回復基調が一服していることをうかがわせる結果である。また、家計動向関連の現状判断D I（48.8）も7ヶ月ぶりに前月より低下し、3ヶ月ぶりに50を下回った。一方、企業動向・雇用関連の現状判断D I（53.4）は小幅ながら4ヶ月ぶりに上昇し、横ばいを示す50を7ヶ月連続で上回った。
- 家計動向関連では単価の上昇を指摘するコメントが先月より少なくなった。5月調査においては「良くなっている」あるいは「やや良くなっている」と回答したウォッチャーのうち多くが単価の上昇を指摘していたが、6月調査ではそうしたコメントはあまり聞かれなくなった。代わりに、「変わらない」と回答したウォッチャーの中で単価の低さを指摘するコメントが多くなった。
 - ・単価の低い商品が非常に好まれている。安い物を少し購入する傾向が続いている。（スーパー店員）
- 単価が上昇していても、販売数量が増えていない状況では、物価上昇という悪材料として捉えられるようだ。物価の上昇が、消費活動にマイナスに作用していると指摘する声が続き少くない。また、物価上昇の要因として、円安による輸入原材料の価格上昇を指摘する声もある。
 - ・客単価は上がっているが、単品単価の上昇によるものであり、買上点数が増えているわけではない。点数が若干減少する傾向の中、何とか売上を維持している状況である。（スーパー店長）
 - ・円安による輸入原材料の価格上昇は、物価上昇を更に加速させている。当店でも止むを得ず値上げを実施し、その結果、客の購買意欲が低下するという状態になっている。この状態からは、すぐには抜け出せそうにない。（一般小売店[食品]経営者）
- インバウンド影響については、百貨店や旅行代理店でプラス効果を指摘するコメントが続いているが、その数が増えているわけではない。
 - ・固定客の売上が堅調なうえ、インバウンドによる底上げがある。（百貨店販売促進担当）
 - ・大都市部のホテルは、インバウンドで軒並み満室状態が続いている。特に中国人の訪日旅行が倍増しており、連日、宿泊客の3割が外国人という状態である。宿泊単価も日本人の宿泊よりも高い料金で泊まっているようで、宿泊施設はかなり収益が上がっている。（旅行代理店従業員）
- 6月に入って状況が厳しくなったという声が聞かれる。4～5月までは、前年が消費税率引き上げ後の反動で大きく減少していたため、それよりは良くなっているという印象を持ちやすかったが、6月になるとそうした影響が消えてきたと考えられる。もっとも、景気を持ち直

しが一服していることの表れかもしれないので注意が必要だ。

- ・4～5月には前年並みに回復した来客数が、今月はマイナスに転じている。前々年同月も下回っており、来客数が下げ止まらない。周辺の商業施設でも厳しい傾向が強まっており、商圈全体として集客に苦戦が続いている。（百貨店営業企画担当）

- 「乗用車販売店」のウォッチャーのうち、コメントを寄せたウォッチャーの現状判断は下表のとおりである。回答合計数が月によってぶれるので単純な比較はできないが、6月は「やや悪くなっている」という判断が増えるなど、判断が厳しくなっているようだ。「変わらない」と回答したウォッチャーについても、そのコメントを読むと、期待していたボーナス増加の効果もなく、厳しい状況が変わらないという状況がうかがえる。

- ・ボーナス時期であるが、来客数は前年から大幅な落ち込みが続いている。自動車税等の増税前と比べても、落ち込みが大きい。個人客だけでなく、法人客でも買い控えが始まっている。（乗用車販売店従業員）

現状判断	良く なっている	やや良 くなっている	変わらない	やや悪 くなっている	悪く なっている	回答合計
3月調査	0	2	7	3	0	12
4月調査	1	1	5	3	1	11
5月調査	1	0	4	3	1	9
6月調査	0	1	4	6	0	11

- 消費動向の二極化を指摘するコメントが6月調査でも出ている。中間所得層の動きの鈍さが続いているうちは、個人消費の回復もあまり期待できないだろう。

- ・高額品の動きは好調を維持しているが、中間価格帯は不振が続いている。お中元商品の売上も、購入点数、単価共に低迷している。中間所得層には、生活様式や儀礼を簡素化し、購買は必要最小限にして貯蓄をするという指向が感じられる。（百貨店販売担当）

- 企業動向関連では、前月に続いて設備投資の明るい動きを指摘する声が聞かれる。もっとも、増加しているというコメントがある一方で、増加が一服していることをうかがわせるコメントも見られる。

- ・中小企業でも業務効率化の投資を前向きに行っているようで、商談機会が順調に増えている。（電気機械器具製造業企画担当）
- ・客先の生産計画では、設備投資がしばらく続いているが、続いているだけで上がり調子ではない。（輸送用機械器具製造業品質管理担当）

- 企業動向関連でも、円安によるプラス効果のコメントはあまり出てきていない。以下のよう

に、円安によるプラス・マイナス両面の効果を挙げると同時に、企業動向の二極化を指摘するコメントが出ている。

・円安効果による大手輸出企業の業績は良いが、中小企業の業績は向上していない。逆に、円安による輸入原料のコスト上昇が、人件費の増加と共に収益を圧迫している。（公認会計士）

- 前月は、「中国向けスマートフォン生産設備の受注が、相変わらず好調である」というコメントがあったが、6月調査では以下のようなコメントが出てきており、注意が必要だ。

・前年から好調が続いていた、中国のスマートフォン向け設備の引き合いや受注が、減少してきている。（一般機械器具製造業営業担当）

- 雇用関連では求人数の増加や求人倍率の上昇を背景に「やや良くなっている」という判断が多いが、人手不足や雇用のミスマッチによる充足度の低さを懸念する声も出ている。

・新規求人に対する充足度合を、前月比及び前年同月比でみると、恒常的に人手不足の製造業においては、共にやや上昇しているものの、卸小売業においては、新規求人数が大幅に増加したため、それぞれ4ポイント、10ポイントの低下となっている。（職業安定所職員）

（2）景気の先行き判断

- 6月の東海地区の景気の先行き判断D I（52.7）は、横ばいを示す50を5ヶ月連続で上回ったが、3ヶ月ぶりに前月を下回った。家計動向関連の先行判断D I（51.2）も、3ヶ月連続で50を上回ったが、3ヶ月ぶりに前月より低下した。一方、企業動向・雇用関連の先行判断D I（55.7）は4ヶ月ぶりに上昇し、横ばいを示す50を14ヶ月連続で上回った。

- 夏のボーナスに対する期待は続いているが、すでに支給が始まっているのに、あまり効果が出ていないという声も出てきている。

・夏のボーナス消費の波及次第とも考えるが、足元の動きは厳しそうであるため、プラスの効果を見込みにくい。（乗用車販売店従業員）

- 乗用車販売店のウォッチャーのうちコメントを寄せたウォッチャーの先行き判断をみると、次ページの表のとおり、6月調査は5月調査と同じ結果となっている。4月調査で夏のボーナス増加への期待もあり改善した後、5月調査ではやや期待が剥落したが、6月調査でもその状況が続いていることになる。

先行き判断	良くなる	やや良くなる	変わらない	やや悪くなる	悪くなる	回答合計
3月調査	0	1	5	6	1	13
4月調査	0	6	5	2	0	13
5月調査	0	3	8	1	0	12
6月調査	0	3	8	1	0	12

- 「やや良くなる」と回答したウォッチャーのコメントでは、ベアやボーナスの増加による先行きの改善が期待されている。

- ・賃金のベースアップによる可処分所得の伸びが多少は見込まれ、夏のボーナス商戦では販売が回復すると思われる。(乗用車販売店総務担当)

- 一方、「変わらない」と回答したウォッチャーのコメントとしては、前ページですでに示したものがあがるが、前述のとおり、ボーナスに対する期待が薄れていることがうかがえる。先行きに対する期待は、以下のコメントにあるように、新型車種の発表に移ってきているようだ。

- ・ボーナス需要期にもかかわらず、店頭での華やかさが感じられない。周りの話の中にも、収入が増えたり、景気が良くなったという話題はなく、客の財布のひもは固い。これからの新型車種の発表に期待したい。(乗用車販売店従業員)

- 来年5月の開催が決定した伊勢志摩サミットによる将来の観光需要の拡大に期待するコメントが出ている。すぐに効果が出てくるものではないが、すでに起きているインバウンド需要の増加と連動して、将来に対する期待が生まれている。

- ・来年の伊勢志摩サミット関連のニュースで、観光客の関心の高まりにも期待できる。(一般小売店[土産]経営者)

- ・インバウンドは、一層増加すると考える。中国の航空会社の新規就航に伴い、観光産業の需要も増えている。国内の景気を外国人が支える時代になりつつある。(旅行代理店従業員)

- ・来年のサミット開催地に決定したことで、海外観光客の増加も期待でき、地域は盛り上がりを見せている。夏のボーナスも改善が期待され、夏物商戦も活発化するものと思われる。(食料品製造業経営企画担当)

- ・伊勢志摩サミットの決定で、この地方の景気はある程度回復すると考えられるが、まだ先の話であり、現状の厳しい状態がしばらくは続くと考えている。(旅行代理店経営者)

- プレミアム付商品券による販売促進を期待する声もいくつかあったが、大きな期待は寄せられていない。

- ・プレミアム付商品券の発売等で、若干は上がる可能性はあるが、円安による商品の値上げが今後

も続くため、客は将来への不安が大きく、大幅に好転するようには感じない。（スーパー店長）

- 物価上昇が今後の販売にマイナスの影響をもたらすとの懸念の声も前月に続いて出てきている。

- ・食品が徐々に値上げ傾向にあり、これからの販売量に影響してくるのではないかと懸念する。（コンビニ店長）

景気ウォッチャー調査について

- 景気ウォッチャー調査は、内閣府が月次で公表する景況調査で、百貨店売場担当者、タクシー運転手、企業経営者など地域の景気に関連の深い動きを観察できる立場にある人々に景気の方向性、水準についての見方を回答してもらい、その結果を集計公表するサーベイ調査である。
- 調査対象の職種によって、「家計動向関連」、「企業動向関連」、「雇用関連」に区分し、区分毎に、集計結果を公表している（地域別は各分野計、家計動向関連のみ公表）。
「家計動向関連」：商店街代表者、百貨店担当者、タクシー運転手、美容室従業員など
「企業動向関連」：製造業経営者、非製造業経営者など
「雇用関連」：人材派遣会社社員、職業安定所職員など
- 主な調査項目は、次の3項目。
 - (1) 景気の現状に対する判断（方向性）
 - (2) 景気の先行きに対する判断（方向性）
 - (3) 景気の現状に対する判断（水準）
(1)(2)については、判断の理由についても回答を求めている。
- 上記調査項目について、下記の5段階の判断を求め、回答結果をもとにそれぞれ点数を与え、これを各回答区分の構成比に乗じてDIを算出している。回答者全員が「変わらない」と答えた場合、DIは50となるため、DI=50が景気の横ばいを示すこととなる。

評価	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
	良くなる	やや良くなる	変わらない	やや悪くなる	悪くなる
	(良い)	(やや良い)	(どちらともいえない)	(やや悪い)	(悪い)
点数	+1	+0.75	+0.5	+0.25	0

(出所) 内閣府HP

- 全国各地の地域ブロック毎に集計・分析をおこなっており、東海地区は、静岡、岐阜、愛知、三重の4県が対象となっている。

※調査の詳細については、内閣府HP、「景気ウォッチャー調査」報告書をご参照ください。

－ ご利用に際して －

- 本資料は、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一した見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所：三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡下さい。